

ポケットモンスター Wind／Wave

concept shigeru_ohmori

■永遠に続いていく物語

テーマは「無限」

はるか昔からこの世界は続いており、
これからも続いていく。

過去の世代は未来のために、何かを託し、
今の私たちは、その何かを受け取り生き続け、
次の世代へと託していく。

その見えざる力によって、人は突き動かされる。
人は、自然は、ポケモンはつながっている。

※（見えざる力 = Wind／Wava）物理挙動の意味。

私たちは、次の世代にどんな世界を残せるか？
今の世界は、果たして未来に託せるものなのか？

時代の風と波。嵐と渦。
見えざる力は自然を作り、豊かさを生み出し、平和を産む。
見えざる力は環境を破壊し、病原を生み出し、争いを産む。

現代は良い世界とは言い難い。
子供達には、こんな世界しか残せなくてすまないと思う。
であれば、せめて厳しい世界を生き抜く力を身につけてほしい。

※（次の世代へと生きる力「サバイバル」）

次の世代にどんな世界を残せるのか。
また、何を伝えていくのか？

これはいつの時代にも無限に受け継がれていく、
親の責任と、子の権利の物語。

- ・無限に続く遊び
- ・無限に広がる大地
- ・無限の可能性を秘めた進化

■舞台

インドネシア、東南アジアを想定。

- ・ポケモンを考える際、今までにない地域であるため、ユニークなデザインができる。
- ・経済的にも発展しており、注目度も高い地域。
- ・ポケモンの知名度が上がってきている。
- ・政治的な問題が起こりづらい。

- ・新しい島を見つけ、探す遊びに適している。
- ・新しいオープンワールドの仕組みに適している。



新しい表現のチャレンジ

- ・ジャングル
- ・風、波（見えない力の表現）
- ・サバイバル

■登場キャラ

・ 自宅



最近、異常天候のニュースをよく見かける。

嵐や火災。
地震や日照り。

悪いポケモンの仕業、というネットの噂も見るけど、
そんなことはないと思って見ていた。

赤「おぎゃー！」

母「あらあら。よしよし」
母「主人公！ 旅行の準備終わったー！？」
リビングからお母さんと赤ちゃんの元気な声が聞こえる。

母「さあ！ リゾートホテルに向かって出発するわよ」
母「宝くじで当たった、有名ホテルの長期パケーションチケット！」

この前、何気なく買った宝くじが当たって、
今日から長期のバカンス旅行。

お母さんに負けないぐら、僕もうれしかった！
だって、このホテルは珍しいポケモン暮すことができるホテル。
どんなポケモンと出会えるんだろう？そう考えると、ドキドキが止まらなかった。

母「じゃあ出発！」

お母さんは赤ちゃんを抱えているので、
荷物は全部僕がもって、出発した。

・ 自宅の外

大都会。
リゾートホテルは海のずっと向こう。
まずは船着き場に行って、ガイドと合流予定。

※地上げ団の活動。

※課題：赤ちゃんを出すと、お父さん何やってんだ感はある。

※村から始まるのはもうきつい。都市から始め、インパクトを出す。

母「船着場はこっちだったはず…」

都市の方は、すごい渋滞で道がふさがっていた。
どうやらポケモンが逃げ出して車が動けないらしい。

？「そこの君！」
？「そのポケモンを捕まえてくれー」

※初期3が飛び出て追いかけるイベント
※フリームーブで、初期3を追いかける

3匹のポケモンを追いかけて、捕まえると、ちょうど船着場に到着した。

？「ふー助かったよ」「ありがとう」
？「…もしかして今日の旅行者かな？」
？「僕はガイドを務めるポケモン博士！よろしく」

博「このポケモン達も旅の同行者！よろしくね」
博「この旅行で、君のパートナーとなるポケモンだよ」
博「後で君のパートナーになるから、今から考えておいてね」

博「それでは出発！」

※船に乗るデモ。初期3匹の紹介も兼ねる。
※途中いろんな島をチラ見。海のポケモンにも出会う。

※タイトル表示



※都市から始まるが、道を迷わせないように移動を制限する。（後で来れる）
※群衆表現。
※都会の慌ただしさ。（旅行先の自然表現との対比）

※博士

※titanの連れ歩きの逆。追いかける。キャラの魅力を伝える。



※課題：ポケモンをもらう理由が必要

※R&D、海、深海、風の表現の見せ場。

・チェックイン



リゾートホテルに到着！
ここは有名グループの、超高級リゾートホテル！
たくさんの人々、レジャー、ポケモンがいる。

博「チェックインは私がしておきます。」
博「そういえば、改めてどのポケモンをパートナーにするか決めた？」



※クアラルンプールから、東南アジアで一番離れたところにする。

※mmoのロビー機能。他のプレイヤーや、クエストボードなどがある。
※バリアフリーで、車いすの人、赤ちゃんなど、今まで表現しなかった人物表現はできないか？

※3匹選択をする。

博「さっそくバトルの練習してみるかい？」

※初めてのバトル

博「うん！ポケモンと一緒になら、どこに行っても平気だね！」
博「あと、これも渡しておくね」

※ポケモン図鑑をもらう

博「この島には、たくさんのポケモンがいる！」
博「ポケモンとの出会いも是非楽しんでください！」
博「自分はこのホテルでガイドもやってるから、困ったことが合ったら、何でも相談に乗ってください！」
博「では！」

母「...さて。やっと落ち着いたわね」
母「しばらくは、この子とのんびり、何もしない贅沢をたのしむわー」

お母さんは、赤ちゃんとのんびりを満喫するらしい。
しばらく暇なので、パートナーのポケモンとホテルの外を散策することにした。

・トモダチとの出会い

ホテルの外にあったポケモンセンターにいくと、
現地の同い年の子供と出会った。（トモダチ、主人公の性別違い）

友「そのポケモン、君のポケモン？」
友「ポケモンセンター、使い方わかる？」
友「この島は初めて？ 色々紹介してあげる！」

トモダチAはこの島で暮らす同い年ぐらいの子。
僕によく似ている。
少しホテルから外れ、ジャングルのような場所に入った。
見渡す限り木ばかりで、すぐに迷子になりそうな場所だけど、スイスイと歩いていく。

友「そこはポケモンが出るから気を付けて！」
友「あっちに私の住んでる町があるの」
野生のポケモンのこと、バトルのこと、たくさんのことを教わった。

※トモダチとバトル
※捕獲チュートリアル
※初めての野生戦

途中スコールにあったり、崖から落ちそうだったりして、
大変だったけど、なぜかその度に二人で笑い合ったりして、
トモダチとも少し仲良くなれたような気がした。



※課題：初戦が博士とバトルで良いか？

※課題：図鑑をもらう理由。長期滞在用のガイド本的なもの？

※いつかは帰らないといけないことを伝える。

※この御、お母さんと赤ちゃんはずっとここにいる。（クリア後は自宅に戻る）

※ポケモンセンターチュートリアル

※ジャングル表現
※オープンワールドだが、ちゃんと誘導したチュートリアル

※天候の新しい表現。

・僕たちの秘密基地

友「自然は友達！ポケモンも友達！」
友「ここが私の秘密基地！」

島全体が見渡せる場所に、手作りの秘密基地があった。
そこから見える島、町、海が夕日に映り、とても美しいと感じた。

そこで不思議に光る、
種のようなポケモンを見つけた。

友「このポケモンは、この島だけに住む珍しいポケモンだよ。」
友「進化すると花が咲くらしいんだけど、誰も見たことが無いんだ。」
友「でも、言い伝えによると、無限の姿があるって言われているんだ」

トモダチは種ポケモンを抱えて自慢げに話した。

トモダチはポケモンにも、この島の歴史にもとても詳しい。
この島には同世代の友達があまりいなかったこともあり、主人公と遊ぶのが楽しらしい。

...遠くから足音が近づいてくる。

友「...だれかきた！」

この秘密基地は、誰にも場所を言ってないらしく、
誰かが来たことにびっくりし、とっさのことで隠れてしまった。

？「.....こんなところに、子供が秘密基地でも作ったか？」
？「...困るんだよねー。この森を伐採するときに邪魔なんだよね」

誰が話しているか、姿が見えない。
この森を伐採する？
顔を見ようとしても、足元しか見えない。

トモダチの方を見ると、
じっと相手をにらみながら、握りこぶしを震わせていた。

...遠ざかる足音。

友「...この森を、秘密基地を壊す?!」
友「あいつらを倒す！」
友「私の森を守る！」
友「私も強くなりたい！」
友「どうしたら...」

日が暮れてきた。
ホテルまでトモダチと帰って、また明日会うことを約束した。



※物語の鍵となる種ポケモン。
※このポケモンを連れていると、伝説の島に行ける。
※その時の育て方で、無限の姿に進化する。

※ちょっとした疑似家族感を出したい。



※ホテルの関係者だと思わせる演出。
※だが姿は見えない。
※実際はリゾート関係者の過激派のみの独断。（地上げ団）





・強くなる方法

次の日の朝。
お母さんは赤ちゃんと遊んでいる。

トモダチと約束した場所で再会した。
友「おっす！」
友「じゃあ、とっくんするよ！」
昨日のことで心配だったけど、トモダチは元気そうだった。

※トモダチとバトル

博「お！さっそく友達ができたのかな？」「こんにちは！」
博「困ったことがあれば、何でも相談にのってね！」

友「強くなるにはどうしたらいいの！！」
博「え！？」

直球過ぎる相談！
でも、確かに大人に聞くのが一番早い。

博「そうだな…」
博「ホテルのアクティビティに、『ジムアドベンチャー』っていうのがあるよ」
博「ポケモントレーナーになって、たくさんのポケモンと出会い、戦い、強くなる！」
博「もしかしたら、チャンピオンも目指せるかもしれないね」

友「それやる！」
博「…りよ、りょうかい！」
博「じゃあ、こっちにきて！」



・ジムアドベンチャー

ホテルのロビー。

博「ここが受付」
博「たくさんのアドベンチャーが紹介されているよ」

博「この地図のアプリをインストールしてあげよう」

※島以外のマップが見られるようになる。

博「ジムアドベンチャーには、100以上のアドベンチャーがあるよ」
博「また、その中でも特に難しい18の『ジムアドベンチャー』がある！」



※キッザニアのようなシステム。ジムも主もごちゃごちゃ。（mmo感）

※今回は特にジム、ヌシ、団などはない。ごちゃごちゃ。

博「そのジムアドベンチャーを全てクリアしたら、なんと豪華賞品がもらえるよ！」
博「あと優秀なトレーナーには、ジムリーダーやチャンピオンから声をかけられるかもしれないから、頑張っ

友「やります！！」

博「まずはポケモントレーナーの基本、波乗りするポケモンを捕まえるところから！」

友「私はもう波乗りできるよ！」

博「そしたら、島の外のアドベンチャーにも挑戦できるね！」
博「やるなら、ちゃんとお母さんにも、伝えておいてね！」

※ここからオープンワールド開始。順不同になる。

- ・トモダチは先に出発する。
- ・お母さんに挨拶し、出発する。
- ・波乗り入手後、島から出られるようになる（都会の自宅や、敵の本拠地にも行けるに行ける）

・オープンウォーター

博士からもらったアプリを元に、いろんな島でアドベンチャーを体験する。

- | | |
|------------|------------------------|
| ・ジムアドベンチャー | ※新要素？ |
| ・天候技取得クエスト | ※全ポケモン乗るための免許 |
| ・ライド免許クエスト | ※mmoを使った遊び。 |
| ・mmoレイド戦 | ※団関係のイベント？ |
| ・ポケモンレスキュー | |
| ・ヌシ | |
| ・ポケサバイバル | ※クラフト＋料理？ |
| ・ダイビング | ※サルベージ。深海の表現をちゃんとやりたい。 |

等のアドベンチャーがあり、好きに選んで冒険できる。

～ ここからは一旦、要素だけを記述 ～

・18のジムアドベンチャー

18タイプ分のマイルストーンを用意する。
今回はジムやヌシがごちゃ混ぜになっている。
また、中にはイベントっぽく、団が絡んでいるものもある。

この18のテーマは、SDGs をテーマにする。
Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）＝ 無限に続く開発



※豪華賞品は、ホテル永住権。クリア後、都市に戻るけど、またホテルにも帰れるようにする。

※課題：参加費は？などあるけど、一旦気にしない。

※タイプアイコン扱い。



これらをクリアすると、チャンピオンに挑むことができる。

※18のジムは全部クリアしなくても、ゲームクリアできるが、真のエンディングではない。

※課題：ジムをクリアしたときのご褒美設定。ライド開放など。

・ 伝説の島

伝説のポケモンが棲んでいるといわれる、人を寄せ付けない嵐波の島。
色々な人が挑戦がしたが、だれもこの島に入ることはできなかった。
伝説ポケモンが認めた人やポケモンのみが入ることができる。

ゲーム仕様としては、初めの島にいる「種ポケモン」を
ある程度育てた状態で、この雲に入ると、中に入ることができる。

※種ポケモンの成長過程によって、中にある島が変化する。
※また島に入ると、種ポケモンが100以上の姿で進化する。その姿に島が反応する。
※あまり成長させないで島に入ると、しょぼい島になっている。

この島は、大小様々海に浮かんでおり、
・小さい島はレイド用。
・中くらいの島は通信で来た島。
・大きい島は、伝説ポケモン用に1つだけ。
発生する。



島は常に雲に覆われており、遠くからはどのような形状になっているかはわからない。
種ポケモンを連れていくごとに、島の形状や、エンカウントが変化する。

※伝説ポケモンは捕まえなくてもゲームクリアはできるが、真のエンディングではない。

※立体的な雲の表現。

※様々なクエストをクリアすると、ヒントとして教えてもらうことができる。
※種ポケモンは、島を作る能力を持っている。

※島のプロシージャル生成の遊び。
※進化の姿はすべて花。花のプロシージャル生成。フラクタル。
※進化のプロシージャル変形。島から出ると、花が閉じ皆同じフォルムになる（mtt対応）

※ピカチュウ型の入道雲とか。（シルエットで何が出るかわかる）
※課題：生成した島の通信の遊びをどう作るか？
※さまざまな形の雲の研究

※島のプロシージャル生成をごまかす演出。
※雲の中に入った時、初めて生成した島を見ることができる。

・ 敵の団

ホテルの会長から直接命令されて動く地上げ団。
各地で自然を壊し、ポケモンを暴れさせ、ポケモンを怖い生き物のように演出する。
その後、住人に怖いポケモンを遠ざけるため、と言って森を切り開き、土地を広げる。
ホテルの従業員のほとんどは、このことを知らない。

様々な事件のきっかけを作る団。
その中に、ホテルの御曹司もいる。

ホテルの御曹司は、
本当に自然をコントロールすることが良いことと思っている。

しかし、何回かバトルをし、主人公やトモダチと会話することで、
自然やポケモン、本当に大切なことに気づき、仲間になる。

ホテルの御曹司が仲間になることで、団の拠点である、ホテル本社のセキュリティを解除できる。
クリア後も、残党が残っており、遊ぶことは可能。

※御曹司を仲間にしなくてもゲームクリアはできるが、真のエンディングではない。

※課題：悪すぎない程度の悪さをどう演出するか？



・団の本拠地



ペトロナス・ツインタワー

大都市。
自宅の近くにあるビルが、リゾートホテルの本社。
そこが敵の団の本拠地。

波乗りを手に入れた後、いきなり乗り込むこともできるが、警備トレーナーが超強い。
かなり難しいが、いきなりラスボスとも戦うことも可能。
その場合エンディングにはなるが、団は復活し、真のエンディングにはならない。

- ・チャンピオンになっていると、顔パスで正面玄関から入ることができる。
- ・伝説ポケモンを捕まえていると、敵の気象兵器を中和できる。
- ・団を倒し、御曹司が仲間になっていると、ホテルのセキュリティを解除することができる。

・最後の戦い

ホテルの最上階にホテル会長がいる。
ホテル会長は、地上げ団を操りながら、ジャングルを切り開き、ホテル開発を進めていた。

会「ポケモンは、嵐を呼び、波を起こし、人々を苦しめる」
会「ポケモンを放置し、こんな大変な世界にってしまったのは大人の責任だ」
会「こんな世界しか君たちに残せなくて申し訳ない」
会「だからこそ、私たちが何とかしなくてはならない」

会「ポケモンは危険な生き物だ」
会「そんなポケモンを生んだ自然は、人の手によってコントロールすべきだ」
会「そして、ポケモンの力をコントロールすべきだ」

会長は、伝説ポケモンの力から分析した気象兵器を使用してくる。

会「これが伝説ポケモンの力」
会「...この力は危険な力」
会「この危険な力は、人の手でコントロールすべきなのだ！」
会「御曹司にはこの力を引き継いでもらおうと思っているんだ」

この時、伝説ポケモンを捕まえていると、気象兵器の嵐を中和することができる。
伝説の島にいた種ポケモンたちも集まり、事態を収束させる。
※それぞれの活躍を描く。

御曹司「大変でも、僕たちは自然と共に、ポケモンと共に生きていく！」
友「自然もポケモンも友達だ！」
※のような良いことを言う。

※ラスボス戦

何とか会長を倒す。

真っ暗だった空が明ける。
青空がとてもきれいだった。

※大人たちの責任

※自然を制御できるという、人の愚かさ。

※最後の天変地異的な表現。
※課題：現実の事件と絡めないような表現にする。



※困難な時代を生き抜く子供たちへのメッセージ。
※子供の権利





・バカンスの終わり

優しい風。
穏やかな波。

長い冒険の終わりは、
長いバカンスの終わり。

出発の前日。

ホテルに戻った僕は、ぼーっとしていた。
たくさんの冒険と出会いがあった。

ホテルは会長がいなくなっても、いつも通り賑わいを見せていた。
どうやら他に協力者はおらず、悪事はすべて一人でやっていたらしい。
御曹司君に教えてもらった。

.....そうだ。
トモダチにさよならを伝えなきゃ。

僕はホテルを抜け出した。

思い出の秘密基地。
トモダチは種ポケモンを抱え、夕日を見ていた。

友「秘密基地、守れたね」
友「たくさん冒険したね」
友「かえっちゃうんだね」
友「私たち強くなったね」

友「...もし私が勝ったら」

※トモダチとのラストバトル

友「.....また遊ぼうね！」
友「秘密基地でいつでも待ってるから！」

トモダチと二人で、島の美しい夕日を眺めていた。
さよならは言わなかった。



※ちゃんと長い夏休みが終わる。



※別れたくないけど、言いたくない。

・チェックアウト

出発の日。

博「チェックアウト終わりました。」
博「また来てくださいね！」

母「一生分、休んだなー」
母「何にもしなかったけど、贅沢だったね！」

赤「ポ... ポケモン」
母「お！しゃべった！」
母「この子が大人になるときは、どんな時代なのかな」

お母さんが主人公と歩いている赤ちゃんを見ながら。
母「みんな成長したね！」

みんなでホテルの外に出て、島を眺める。

母「いいところだったね」
母「また来ようね！」

※エンディング

※船に乗って、都市の自宅を目指す。
※遠くでトモダチがずっと手を振っている。
※今まで出会った島、ポケモン、人に手を振りながら。

やさしい風や波が、僕たちの背中を押してくれる。

どんな世界でも、僕たちは強く生きていく。

※子供の成長を分かりやすく

※子供のために世界を良くしていきたい。

・クリア後

自宅。
いつも通りの日常。
大都市の慌ただしさにも慣れてきた。

赤ちゃんは、元気に部屋を走り回っている。

ピンポーン。
「宅急便でーす」

母「何かしら？...」
母「...！ ホテルの御曹司君から！？」
母「ホテルの自由滞在チケット！！！」

母「あなた、いつの間にホテルの御曹司君と友達になったの！？」
母「これでいつでも、ホテルに帰れるね！」

※冒険は無限に続いていく。

END

※ジムアドベンチャークリアの豪華賞品が届く。
※「無限」のチケット